

アカスジカスミカメ

カメムシ目カスミカメ科に属し、国内では北海道南部～九州まで分布し、登熟中の稲穂から吸汁し斑点米を発生させる、「斑点米カメムシ」の一種です。本虫は1970年代には斑点米カメムシとして認識されていっていませんでしたが、1980年代に岩手県、宮城県、広島県において多発し、斑点米カメムシの主要種となりました。2000年代には全国的に急速に増加し、2010年には全国で最も重要な斑点米カメムシになりました。(渡邊、樋口、高橋、永野、田中ら) 主にイネ科植物で繁殖し、中でも牧草のイタリアンライグラスを好み、転作牧草地は本田侵入前の重要な繁殖地になります。また、本田内のカヤツリグサ科雑草の小穂にも産卵します。

1. 本県での発生状況

本県では2000年代以降に本田への侵入が確認され、2010年以降に急増しました。今年の発生地点率は90%を超え、全県的に発生しました(図1)。また、今年(2018年)は7月下旬に本田内ですくい取った斑点米カメムシの68%がアカスジカスミカメでした。(図2)

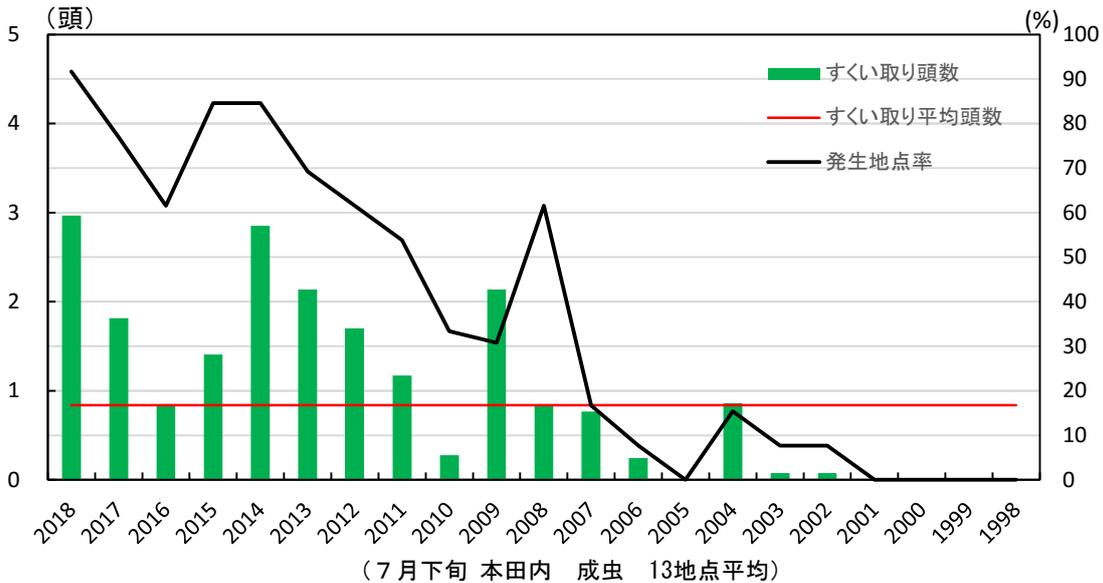
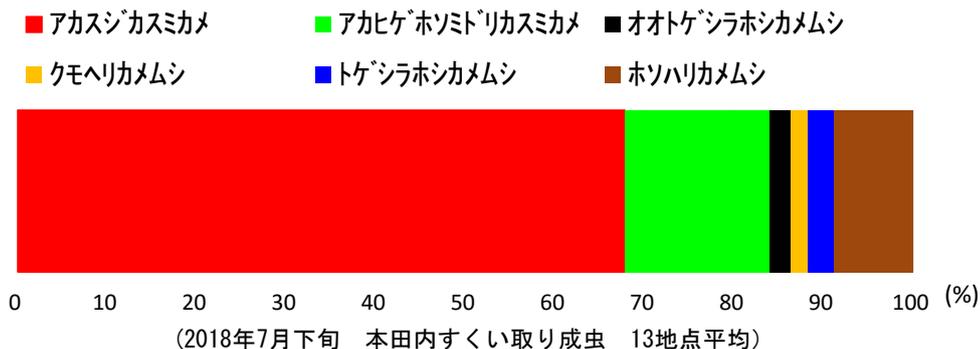


図1 アカスジカスミカメのすくい取り頭数と発生地点率の年次変動



(2018年7月下旬 本田内すくい取り成虫 13地点平均)

図2 斑点米カメムシ類の種構成割合

2. 形態、生態

体長は5mm前後の小さいカメムシで、活発に飛翔します。体色は淡い緑色で前胸背の両側から伸びる太い橙赤色の太い縦条があり、触角や脚節も赤色です。

北日本では3回程度、西日本では5回程度発生し、孵化した幼虫は5回脱皮をした後、成虫になります。冬季は休眠卵で越冬し、春に孵化した幼虫が5月より越冬世代成虫になります。その後、雑草地や休耕田、牧草地で増殖し、次の世代より本田に侵入します。



3. 被害

本虫は口針が弱く籾殻を突き通す事ができないので、主に開花期や登熟初期に加害します。外穎と内穎の隙間や組織の柔らかい籾の先端から口針を挿入して吸汁し、斑点米を発生させます。斑点は吸汁痕から細菌やカビ類が侵入し、玄米の表面が黒色や茶色に着色する事により発生します。また登熟中期以降に割れ籾の発生が多いと、口針を挿入しやすくなるため被害が多くなります。



斑点米（頂部黒変、側部しみ）



割れ籾

4. 防除対策

- (1) 春に越冬世代幼虫の発生源となる休耕田および遊休地、雑草地等を除草します。特にイネ科雑草は餌場になるので注意します。
- (2) 7月上旬頃（出穂期前）までに生息場所となる、農道、畦畔、休耕田および遊休地等の周辺除草を徹底します。
- (3) 本田内に、ヒエ類、イヌホタルイ、シズイ、コウキヤガラが発生すると、出穂期前に侵入し、防除後も本虫の繁殖源になる事が多いので除草に努めます。特にイヌホタルイが発生すると発生密度が高まり、斑点米被害を助長します（宮城県）。
- (4) 成虫は移動能力が高いため、地域全体での雑草対策や牧草地の管理が重要です。
- (5) 7月中に出穂する稲は、出穂7～10日後と14～17日後の2回防除を徹底します。
- (6) 8月以降に出穂する稲は、出穂7～10日後の防除を徹底します。